

1. 単元名 ゆかし里に流れる秋篠川の魅力を発見し、言葉で未来へつなげよう

2. 単元の目標

- ・秋篠川や音無川には様々な役割があることを理解することができる。 (知識・技能)
- ・秋篠川を未来につないでいくため、他の地域と比較しながら、自分ができていることを考え、言葉によって表現することができる。 (思考・判断・表現)
- ・秋篠川に関心をもつとともに、未来へつなぐ担い手として自分たちができていることを実践し、言葉で伝えることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1)教材観

本学習は、わが校の校歌にある「ゆかし里」という言葉をもとに、秋篠川という子どもたちにとって当たり前にある地域の川に注目させ、秋篠川の役割に気付く、この役割が様々なつながりをもっていることを知り、自分たちも未来へつなぐ担い手としての行動宣言を地域に発信すること目的とした。この目的を達成するために、「川上村の音無川の役割」と「秋篠川の役割」を教材化した。

1 つ目の「川上村の音無川の役割」とは、水源の森としての役割である。川上村では、1996年全国に向けて『川上村に暮らす住民はもちろん、下流域の人々とも手を携えて、かけがえのない水と森を育てていきたい。』という考えのもとに「川上宣言」を発信している。この宣言を知ることで、源流に住むものとして美しい水を下流や海まで流し続けていく責任感に気付くことができる。また、川の環境を守ることは下流の地域を豊かにすることができるという自己有用感に気付くこともできる。このように、「川上村の音無川の役割」を教材化することで「川は人々の思いをのせている」ことに気付かせることができる。

2 つ目の「秋篠川の役割」とは、平城京の時代に人の手で作られたという歴史的な役割である。この川が作られたことにより、物流を運搬し繁栄させたことや、地域の米作りの農業用水として活用されてきたことなど平城の町の歴史を紡いできた存在として気付くことができる。また、川沿いの桜並木は、景観をととのえているだけでなく、桜を見に来た人々により、川沿いが踏み固められ、川の氾濫を防ぐ助けにもなっている。このように、「秋篠川の役割」を教材化することで、「川は歴史的な思いがある」ことに気付くことができる。

また、2つの川の役割には、上流にある川(音無川)と中流にある川(秋篠川)としての違いもある。水質や見た目の違い、有機物量に起因する確認できる生物の違い、森林と住宅などの周り環境の違いである。役割の異なる川を教材化し比較することで、地域の秋篠川の魅力に気付けると考える。

さらに、「川上宣言」を教材化することは、人の思いを言語化して発信していることへの気付きになる。この気付きにより、児童が自分の思いを言語化し未来へつなぐ担い手になるための一助となると考える。

このように、「川上村の音無川の役割」と「秋篠川の役割」を教材として使用することで、「ゆかし里に流れる秋篠川の魅力を発見し、言葉で未来へつなぐ」ということを自分事としてとらえ発信できるようになると考えた。

## (2)指導観

まず、地域の秋篠川について知っていることを出し合う。児童は秋篠川が地域に流れている川という認識だけで、どのような川なのか知らないことに気づく。また、地域の人に出会い秋篠川が農業用水というお米をつくるためにかけがえのないものだと知る。そこから、「地域の秋篠川はどのような川なのだろう？」という学習問題を設定する。しかし、秋篠川が自分事になっていないので、なかなか興味を持たない。

そこで、森と水の源流館と連携をし、秋篠川ではなく、少し離れた音無川について「音無川には様々な役割がある」ことを体験する遠足行き、学んだことを模造紙にまとめる。ここで、森と水の源流館より古山氏を招き学習した気づきを発表させるなかで「川上宣言」について説明をいただき、川上村の人々の思いや考えにもふれさせる。また、古山氏より児童に「秋篠川は平城京の時代に人によって作られたこと」「秋篠川にも役割がある」というアドバイスから、秋篠川の調査へとつなげていく。

秋篠川の調査では、奈良市河川課と連携し、谷氏を講師とまねく。それぞれの川を調査しまとめることで、音無川と秋篠川の役割に気付く。その後、それぞれの役割を画用紙にまとめ、みつけた役割と関連する(つながる)役割を考えて毛糸でつないでいく活動を行う。この活動を通して、秋篠川のもつ多様な川の役割には、つながりがあることを見つける。このつながりを見つける中で自分とのつながりにも気づき、自分事として、秋篠川を感じられるようになっていく。

この自分事にするために、大切にしたいのが言語化と視覚化である。言語化するということは、自分が体験や経験したことをよく思い出し、言葉を精選しながら、俳句や詩を作るということである。言葉を精選するときに、体験や経験の見方・考え方を深めながら、何度も考え直し新たな気づき生まれる活動になる。また、言語化した作品を交流させることで、友達の考えからも新たな気づき生まれるだろう。本単元では、音無川・秋篠川それぞれの調査活動のあと、体験や経験したことから俳句を書く活動を行う。また、二つの川の役割をつなげた時に、「なりきり詩」を書かせる。「なりきり詩」は、川に関係するもの(魚・水・桜の木)の視点から、詩作を行う活動である。違う視点を取り入れることで、いままでの学習を新たな視点で振り返ることができる。詩や俳句を作り、自分の思いを言語化することで、秋篠川について一層深く見つめなおすことができる。と考える。

視覚化するために、役割を毛糸で結ぶという活動(しあ「環」せの糸)を行う。川の役割を画用紙にまとめ、毛糸でつなぐ。この役割をつないだ毛糸を束ねて、児童一人一人が手にもち、円状に広らせる。毛糸が円状に広がることで、一つ一つの事柄のつながりをより強く印象づけさせる。(5、単元の展開の写真参照)強く印象づけたところで、しあ「環」せの糸と名付けていることを伝える。児童は、この「環」について考えめぐらせる。「環」には、取り囲むやめぐるという意味が含まれている。この後、しあ「環」せの糸の写真を見返させる。自分で見つけた気づきや川の役割は、「環」のように巡り、自分たちの生活やこれからの未来に関係していることや、今までゆかし里を守ってきた人々がいることに気づき、責任感や感謝の気持ちが生まれるだろう。これは、人が生きていくための幸福感につながっていくと考える。

このような活動から「秋篠川は自分たちに関係している魅力ある川だ」という気づきさせる。秋篠川を自分事として感じることで、「秋篠川の魅力を守るためには、自分たちになにができるだろう」という問いが生まれる。そこで、実際にできることを実践する。しかし、児童のできることは限られているので、インターネットなどで、自分のできることを調べ、共有し、再び実践するという活動を繰り返す。この繰り返しの中で、自分が今後も続けていけることを見つける。最後に、「川上宣言」を参考にしながら、「平城宣言」として言葉にして自分のできることを地域に宣言し、児童から川への思いを発信する。

この時、国語科との連携を図る。いままで、学習してきたことや感じてきたこと、ゆかし里として受け継がれてきた思いなどを紹介する文章を書かせた上で「平城宣言」の作成に挑ませる。言語化することで、これまで

の活動を俯瞰的にみることができ、「平城宣言」が自分事の思いとなる。

これらの活動の中で、実践したことで自覚し、未来へつなぐ担い手として自分たちができることを問い続けられるような自己の生き方を見つめられる児童を育てることができると考える。

(3)この題材で働かせる ESD の視点(見方・考え方)

【責任性】 秋篠川の役割を守り未来につなげていくために、自分たちできることを考える。

【相互性】 川の多面的な役割が自分たちの生活に深く関わっている。

・本学習で変容を促すESDの価値観

【世代間の公正】自分の世代だけでなく秋篠川の魅力を未来へつないでいこうと考え行動する。

【幸福感】秋篠川の役割の恩恵により生活が豊かになっていることに感謝し、秋篠川を大切にする。

・SDGsとの関連

目標11 住みよいまちづくり 目標14 海の豊かさを守る 目標15 森の豊かさを守る

4. 評価の規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①秋篠川、音無川には様々な役割があることを理解している。	①秋篠川、音無川の役割はそれぞれことなることを理解している。 ②自分の思いを詩や文章、宣言に表現している。	①秋篠川の様々な役割を、意欲的に調べたり考えたりしている。 ②自分のできることを見つけて、取り組んでいる。

5. 単元の展開

	学習内容	●留意点 【評価】
1 学 期	○秋篠川について知っていることを確認する。 ○学習問題を作る。	●秋篠川の環境について興味を持たせる。
<b>平城地域の秋篠川は、どのような川なのだろう</b>		
2 学 期	○遠足で川上村の吉野川源流へ行き、生物調査をし、森と水の源流館の見学から、音無川の役割を気づく。 ○気付きを模造紙、画用紙にまとめる。 ○まとめを源流館の古山さんに発表して評価をもらう。 ○新しい学習問題をつくる。	●音無川の生態系を理解させるために、水中、陸上の生物調査や植物観察をさせる。 ●音無川に多面的な役割をグループに分かれて調べまとめさせる。【知・技】 ●調査で感じたことの俳句を書かせる。
<b>秋篠川のさまざまな役割をさがそう</b>		

○県河川課の方と秋篠川の水生生物指標調査を行う。



●指標調査から秋篠川の水質を分析し、秋篠川がどのような川であるかを考えさせる。

●音無川の多面的な役割が秋篠川にもあるか、興味のある役割をグループに分かれて調べ、まとめさせる。

【知・技】【思・判・表①】

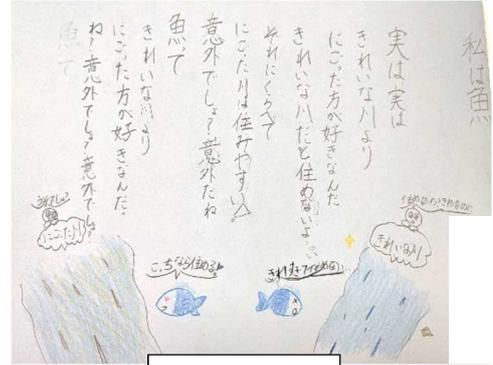
●しあ「環」せの糸を活用し、つながりを視覚化させる。

●なりきり詩を書く。

一人一本つないだ毛糸を束ねると、円状に広がる。環のようにつながっていることを視覚的に捉えさせる。



しあ「環」せの糸



なりきり詩

○音無川と秋篠川のつながりに気づきから、新しい学習課題をつくる。

秋篠川の魅力を守るためには、自分たちになにができるだろう

3  
学  
期

- 問題の解決につながる行動を考えて実践する。
- 調べ学習で、自分にできることを調べ、まとめ、発表する。
- 再度、実践する。
- 自分にできることを「平城宣言」としてまとめる。

●自分たちがいままで当たり前にしてきたことを振り返らせる。

●実践を記録し、共有させる。

●国語科とつなげ、いままでの学習をまとめてから、「宣言」を書かせる。【思・判・表②】